

第 12 回子ども虐待医学会学術集会（第 2 報）

3月4日（金）から第12回子ども虐待医学会学術集会の

参加登録・演題募集を開始しました！

第12回子ども虐待医学会学術集会に参加される皆さま

大会長の京都第一赤十字病院 第二救急科の安です。

3月4日（金）から、7月3日（土）、7月4日（日）に開催となる第12回日本こども虐待医学会学術集会の参加登録を開始しました。

第12回日本子ども虐待医学会学術集会

<http://web.apollon.nta.co.jp/jamscan2020/index.html>

学術集会参加の一次登録期間は4/30（金）までとなっています。

一次募集期間終了後も一定期間において二次募集を行いますが、二次募集については以下の制約がありますので、ぜひとも一次登録期間中に参加登録をお願いします！

- ・7/4(日) web 学術集会のみ参加可能（二次申し込み期間になりますと、両日参加の申し込みはできません）
- ・一次募集期間に比べて各参加区分 ¥1,000 増し（例：医師会員事前登録(WEBのみ)
¥11,000→¥12,000）
- ・事例検討会申し込み不可

詳しくはホームページをご覧ください。

7月3日（土）は京都テルサでの集合形式学術集会となりますが、新型コロナウイルス感染症に留意し、現時点では参加者数に上限を設ける予定です。オン・デマンド配信ができ

ないものがありますので、特に両日参加を考えている方はお早めに申し込みを済ませてください。

興味を持っていただけるよう、今回の学術集会のプログラムの一部を紹介します。

特別講演：小国 士朗さん

「注文をまちがえる料理店」「deleteC」の小国 士朗さんに特別講演をお願いしました。

小国さんは認知症の方々がスタッフを務める料理店を企画し、認知症の方々が当たり前のように入れられ、認知症を持たない方々と共存する小世界を具現化されました。小国さんのお話から、子ども虐待対応における新しい視点や取り組みのヒントをつかみ取っていただきたいと考えています。

興味のある方はぜひ「小国 士朗」で検索してみてください。

皆さんナマでお話を聞きたくなると思いますよ。

教育講演：身近な子ども虐待と行動異常〜〜〜発達障害と勘違いされる子ども

横山 浩之先生（福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 医学部小児科学講座 教授）には「愛情遮断と発達障害」についてご講演いただきます。日常診療の中で遭遇する発達障害の子どもたちの中には、幼少期の愛情遮断が少なからず隠れているという興味深いお話が聴けると思います。

教育講演：子ども虐待の死亡事例検証と Child Death Review

2018年12月の成育基本法制定を受け、昨年からは厚生労働省のモデル事業も始まり、いろいろと話題となっている Child Death Review (CDR)。CDRは「予防のための子どもの死亡検証」と訳すそうです。要保護児童等重大事例検証に長年かかわってこられた奥山眞紀子先生（社会福祉法人 子どもの虐待防止センター 理事）、本邦におけるCDRのト

ップランナーの一人である沼口 敦 先生（名古屋大学医学部附属病院
救急・内科系集中治療部）にご講演いただきます。CDRについて知りたい方、ぜひともご
視聴ください！

シンポジウム：「体罰や暴言等の防止」を考える

昨年4月から児童虐待防止法等において体罰を禁止する法律が施行され、支援にかかわる
皆さまの意識変革が求められています。本学術集会は今まで主に重症事例に対するアプロ
ーチについて扱うことが多い学術集会でした。ポピュレーションアプローチにつながる体
罰や暴言等への対応について取りあげるのは今回が初めてではないかと思えます。

重症の虐待にはかかわる機会がない、虐待はどこか遠くの世界と感じておられる皆さま、
子どもたちのかかりつけ医として地域医療に従事しておられるクリニックの先生方、地域
の中で子どもとその家族に寄り添っておられる皆さまにこそ、ご参加いただきたいシンポ
ジウムです。

今まで一度もこの学術集会に参加したことがない方であっても全く構いません。ぜひとも
お聴きになっていただけませんか？

大会長特別企画プログラム：医療における子ども虐待のレジストリ研究

今まで学会が主導する子ども虐待のレジストリはありませんでした。他領域から子ども虐
待医学会に求められているのは何か。医学・医療に基づいた専門家としての意見表明では
ないかと私は考えています。

子ども虐待はケースの集約化が困難で、かつ、特定の疾病では設定が可能である「診断の
ためのゴールデンスタンド」を設定しにくい分野です。しからばこの領域において今
後レジストリを整備していくことは、10年後、20年後の未来を見据えたときに必ずや我
が国の虐待医学発展に寄与するものになるはずで。

演者には他領域でレジストリ研究にかかわり、実際に大きな成果を挙げている二人の新進
気鋭の若手医師を迎えました。

諫山 哲哉先生（国立成育医療研究センター 新生児科 診療部長）

演題名：多施設共同によるレジストリの立ち上げ・運用の成功のポイント：新生児科領域
での経験から

松山 匡先生（京都府立医科大学 救急医療学教室 助教）

演題名：若手でもできる！多施設共同レジストリ構築成功の秘訣

大会長からの一押しのプログラムです！

なお、特別講演、教育講演、シンポジウム、ランニングレクチャー等のコンテンツは後日
オンデマンド配信でも視聴していただけるようにする予定です。当日参加が難しい方も子
ども虐待に対する知識をアップデートする機会としてぜひご利用ください。

また、小児科領域講習、専門医共通講習の単位取得が可能なコンテンツも多数準備してお
りますので、小児科医のみならず、子ども虐待にかかわる多数の専門医の参加もお待ちし
ています。

2021年3月6日

第12回日本子ども虐待医学会学術集会

大会長 安 炳文

（京都第一赤十字病院 第二救急科）